

(1) 篠崎 隆 (建築家)

(左2点) カラマツ皮付き枝、カラマツ集成材 左/34×37×49cm 右/34×37×70cm (右) カラマツ板、カラマツ角材 34×37×49cm
さまざまな幹や枝は均一加工した材の台の下で寄り添う。合わせて、DIYで簡単に製作できるバージョンも考案。

(2) 大野美代子 (環境デザイナー)

カラマツ 145×45×75cm
「方杖橋」という橋の構造で製作した2人掛けベンチ。高齢者を気遣い、両脇に立ち上がりをつけている。

(3) 剣持デザイン研究所
(建築/インテリア/プロダクト)

カラマツ 91.6×67×62cm
座面までの高さは33cm。腰を掛けると木の中にすっぽりと包まれたような感覚に浸れる。

(4) 清水泰博 (環境建築家)

カラマツJパネル
46.8×95.4×67.4cm
「床」と「椅子」のあいだのような存在がテーマ。1枚の板材と2つの脚部の3つのパーツからなる。

(5) 黒川哲郎 (建築家)

カラマツ突き板合板12mm (梓)、キャンバス (座布) 71×65.2×98.4cm
「ハードイチェア」の室内外用、ノックダウンタイプ化。突き板合板は、変形を止め、軽量で強度を保っている。

(6) 大場 正 (造形作家)

カラマツ、スチール
220×70×75cm
乾燥後、異なった形状にねじれる性質をもつ木。それを見て触ることができる造形としてのベンチ。

(7) 齋藤繁一 (建築家)

カラマツ、マコーレ
49.5×28.5×30cm
現代のちゃぶ台として、個としても、組み合わせて大勢でも使える。左は3つを組み合わせたかたち。

(8) 丸谷芳正 (家具デザイナー)

カラマツ 200×195×70cm
耳付きのカラマツ板と丸太のかたちを生かした脚。凜としたカラマツの木立を感じさせるテーブル。

(9) 石田和人 (デザイナー)

カラマツ3層パネル
450×33×21cm (6ピース直線時)
空間に合わせ、自在に連結できる腰掛け。時には卓に、ひっくり返すと収納にもなる。

(10) 三井 緑 (プロダクトデザイナー)

カラマツ、ステンレススチール、布+クッション背 140×56×71cm
縦格子の背をつけたベンチ。格子の隙間の光から、カラマツの木漏れ日を思い馳せる。



「木のデザイン」招待作家展、会場風景。



(6) 五・六一x



(8) SUGER PRODUCTION I



(10) 炭屋格子のベンチ



(5) バタフライチェア ノックダウン



(7) CHABU



(9) 折柱 -ORIBASHIRA-



(2) ガリバーの椅子



(1) トライローグ(左2点) トライローグ DIY (timber) (右)

カラマツから考える「木のデザイン」展

軽井沢の脇田美術館にて、建築家や彫刻家、デザイナーなど幅広いジャンルの作家による、「木のデザイン」招待作家展が開催された。展示されたのは、カラマツを素材にした23作品。

2011年の秋には、信州落葉松(カラマツ)を使った公募展が企画されている。



(4) 安楽板



(3) 無題

脇田美術館

洋画家・脇田和 (1908-2005) の油彩、素描、版画など約1000点を収蔵。さまざまなアートプログラムも展開する。
長野県軽井沢町旧道1570-4
Tel.0267-42-2639
開館期間/4月中旬～11月下旬
開館時間/10:00～17:00
入館料/一般1,000円、大高生600円、中学生以下無料



2011年「木のデザイン」展 公募概要

□募集作品 *カラマツを用いたデザイン。インテリア(家具、調度品、ステーションナリー、玩具、小物やオブジェ等)、エクステリア(公共で活用するオブジェクト等)。
*カラマツと併用する素材は自由。(例:石、紙、鉄、その他)
*複数生産することが可能であることを考慮すること。
□賞 大賞/長野県知事賞(1作品)、特別賞/軽井沢町長賞(1作品)、審査員賞(若干名)、木青連会長賞(1作品)
□審査員 審査員/松本哲夫(オブザーバー)、大野美代子、喜多俊之、黒川哲郎、丸谷芳正、三井 緑、脇田 智(脇田美術館館長)
□エントリー締め切り 2011年3月5日(土)(予定)
□事務局・問い合わせ先 「木のデザイン」プロジェクト事務局(脇田美術館東京事務所内)
東京都渋谷区神宮前2-5-6-203 Tel. 03-5789-4138
*詳しくはHP参照。http://www.wakita-museum.com

軽井沢駅から北へ。車の往来する大通りをすこし歩いてから左へ入ると、木立の続く道につながる。静けさの中、爽やかな高原の空気をやつと感じられる。木々の合間に洋画家・脇田和の作品を収蔵、展示する脇田美術館が見えてきた。館内に入ると、木の香りとともに存在感のある作品が迎える。使われている素材は、カラマツ。座り心地や機能性を追求した家具としての作品もあれば、素材感あふれるオブジェや絵画などの芸術作品もある。

この展覧会は、2011年秋に予定されている、カラマツを用いた公募展のプレビュー「木のデザイン」招待作家展*。製作したのは、建築家やいろいろな分野のデザイナー、芸術家たちだ。同じ材を使いながら、さまざまな表現方法に驚く。ただ、公募展ではアート作品ではなく、インテリアやエクステリアで使われるもののデザイン作品を募集する。

このプロジェクトで目指すのは「森林を、環境と資源として意識したデザインを広く募り、展覧会を通じて芸術活動の新しい可能性を見出し、これからの時代に「木の文化」の再考を提案していくこと」。ここ長野県では、カラマツの植林が江戸末期に始まり、県内の人工林の半分以上にカラマツが植林されている。カラマツをデザインした作品が今後発表されていくことで、カラマツの活用促進も期待される。

カラマツを素材として、2011年秋にどんな公募作品がこの美術館に並ぶのか、今から楽しみだ。